

日本画家・上村淳之さんや染色工芸家・羽田登さんほか、日本画と工芸の巨匠から若手までの作品、新作207点一挙公開！
琳派400年記念 現代作家200人による日本画・工芸展「京に生きる 琳派の美」開催
<2015年4月25日(土)～5月17日(日)／京都文化博物館>

京都府は、2015年4月25日(土)～5月17日(日)、琳派400年記念展 現代作家200人による日本画・工芸展「京に生きる 琳派の美」を京都文化博物館にて開催します。

本展覧会は、琳派誕生400年を記念して、京都日本画家協会(設立：昭和16年)と京都工芸美術作家協会(設立：昭和21年)が、初めて合同で開催する企画展で、京都を代表する日本画・工芸作家207名が集結し、琳派をテーマに作り上げた作品207点を、一挙に公開します。

琳派の美意識を受け継ぐ、梅や椿が金箔の上で咲き誇る華やかで美しい絵画や、尾形光琳の絵を彷彿させるような漆芸作品、黄金と水色の配色も鮮やかに鶴が優雅に舞う扇子型の焼き物など、それぞれの作家の「琳派観」を通して、巨匠から若手作家まで、京都の芸術家たちによる美の競演を、お楽しみいただけます。

また期間中、第一線で活躍する出展作家を講師に琳派の代表的技法などを体験するワークショップを開催するほか、ギャラリートークも連日開催。琳派の新たな形を鑑賞するだけでなく体感できるプログラムをご用意しています。



概要

【日時】 2015年4月25日(土)～5月17日(日)10時～18時
 金曜日は19時30分まで ※入場はそれぞれ30分前まで

【会場】 京都文化博物館 3・4階特別展示室

【休館日】 5月11日(月)

【入場料】 一般800円(600円) 大・高校生500円(400円)、
 中・小学生300円(250円)

※()内は、前売り及び20名以上の団体料金

【出品予定作家】 ◇京都日本画家協会会員

上村淳之、中路融人、岩倉壽、山崎隆夫(以上日本藝術院会員)
 森田りえ子、重岡良子、猪熊佳子など計100名

◇京都工芸美術作家協会会員

伊藤裕司(漆芸作家)、今井政之(陶芸家)、中井貞次(染織作家)
 森野泰明(陶芸家)、(以上日本藝術院会員)

羽田登(染色工芸家)、永樂善五郎(千家+職)、樂吉左衛門(千家+職)など計107名

【主催】 京都府、京都文化博物館、京都日本画家協会、京都工芸美術作家協会、京都新聞

【関連イベント】 ◇ワークショップ(費用各500円、別途入場券必要。参加応募方法は京都文化博物館HPをご覧ください)

①日本画 たらし込みで琳派に挑戦! (定員20名：対象中学生～)

4月29日(水・祝) 午後1時～4時 講師：上村淳之、土手朋英、中出信昭、藤原敏行、渡辺章雄
 日本画の絵の具をつかって、たらし込み技法を体験し、色紙作品を仕上げます。

②藍染めの布にわたしの琳派を表現しよう! (定員20名：対象小学4年生～高校生)

5月5日(火・祝) 午後1時～4時 講師：井俣慶人、内藤英治、兼先恵子
 自分で彫った型紙をつかって、藍染めの布を脱色し、自分なりの琳派の世界を表現します。

◇作家によるギャラリートーク(事前申し込み不要、当日の入場者に限ります)

4月25日(土)、26日(日)、5月2日(土)、3日(日・祝)、9日(土)、10日(日)

※ 各日とも午後2時から40分程度。講師は上村淳之、大野俊明、村田好謙、面屋庄甫など



「暁雲二鶴扇面大皿」永樂善五郎

《内容に関するお問い合わせ》

京都府文化環境部文化芸術振興課 担当：山本、近藤、村上 TEL:075-414-4222 FAX:075-414-4223

出展作品及び出展者について



「月の水辺」上村淳之
(日本画家/日本藝術院会員)
元京都市立美術大学教授・
副学長 京都市立美術大学
名誉教授。奈良市在住。上
村松篁の子として京都に生
まれ、祖母・上村松園から
三代に亘り花鳥画を描く。
13年文化功労者。



「冬華白梅」重岡良子
(日本画家)
京都市立芸術大学専攻
科日本画専攻卒。現代
日本画家を代表する一
人、下保昭に師事し、
日展および日春に多数
入選。長年に亘り今様
の琳派に取り組む。



「堰出訪問着 流形」羽田登
(染色工芸家/京都府指定
無形文化財「友禅」保持者)
羽田登喜男の長男として生
まれる。京都市立美術大(現
京都市立芸術大)日本画科
卒。幼少より、家業の手描き
友禅を学び、伝統の美を継
承。90年日本工芸会総裁賞、
11年京都府文化功労賞受賞、
旭日双光章受章。14年京都市
文化功労者。



「杜若」伊藤裕司
(漆芸作家/日本藝術院会員)
日吉ヶ丘高等学校美術課程
卒。山崎覚太郎に師事。53
年日展初入選。京蒔絵に加
えて色漆表現による作品を
多数発表している。04年日本
藝術院賞受賞。

琳派400年記念祭について

2015年は、本阿弥光悦が京都洛北鷹峯に光悦村を拓いて400年目の節目の年。ここ京都から、さまざまな団体と共に、約1年間、「琳派400年記念祭」を展開します。京都を発信源とする取り組みで文化や産業を活性化させるだけでなく、次の100年、21世紀の琳派を担う若い世代の関心を呼び起こしたい。この記念祭を機に、時代を切り拓く力を持つ、京都発の新たな文化を産み出したいと考えています。

琳派の足跡を巡り、あらためて「美とは、美意識とは何か」を問いつつ、美術のみならず芸術全般や産業・観光などにも刺激を与え、21世紀に生きる私たちの豊かな稔りと、次代を拓く精神の礎とし、21世紀琳派の開花を目指します。



《琳派について》

琳派(りんぱ)は、江戸時代初期の元和元年(1615年)を誕生の起点とする、日本が創造した、世界に誇る最上の美です。華やかな意匠性を特徴とし、近代まで活躍した、同傾向の表現手法を用いる美術家・工芸家やその作品のことを指します。その意匠性は、絵画の世界にとどまらず、衣装・漆芸・陶芸・屏風・扇面など生活に密着した伝統工芸の世界にも波及し、私たちの日常生活の中に今も息づき、日本のみならず、広く欧米の人をも魅了しています。

琳派の特徴は、琳派と呼ばれる絵師たちには基本的に血縁関係など強い結び付きはなく、生まれた時代も隔たっていることが挙げられます。先人の意匠性に憧れ、影響を受け、作風を踏襲したことで、大胆で繊細な琳派という流れができたと言えます。つまり、琳派は作品の図柄や意匠性に尊敬の念を抱き、時代を超えて受け継いできたアーティストの系譜。従って、厳密には流派とは言えない不思議な流れを持っています。